外国につながる子どもを対象とした進路ガイダンスの実施状況と意義

江　成　　幸

要旨：三重県津市で開催されている、外国につながる子どもたちを対象とした進学ガイダンスについて取り上げる。実施内容や参加者の反応などを紹介し、その成果から、日本の教育制度について子どもと保護者が必要とする知識と情報を提供する重要性を述べる。

1. はじめに

三重県内では、「外国につながる子どもたち」の教育支援が急務になっている。そこで私たちは、日本語以外の言語環境で育った青少年を対象に、進路支援の課題を抽出する共同研究に取り組んでいる。平成30（2018）年度からは科学研究費の助成を受け、当事者およびその家族や支援関係者を対象に質的調査を行っている。

彼らの多くは、日本で働く保護者に帯同もしくは呼び寄せられたケースである。三重県は現在、0歳から14歳までの年齢層に占める外国籍人口が、全国の都道府県のなかでも上位に入るという。日本では中卒者の求人が極めて少なく、非正規労働あるいは単純労働に就かざるをえない。将来的に日本で安定した生活を送るには、高校卒業以上の教育機会がきわめて重要である。

2. 三重県における外国につながる子どもの教育

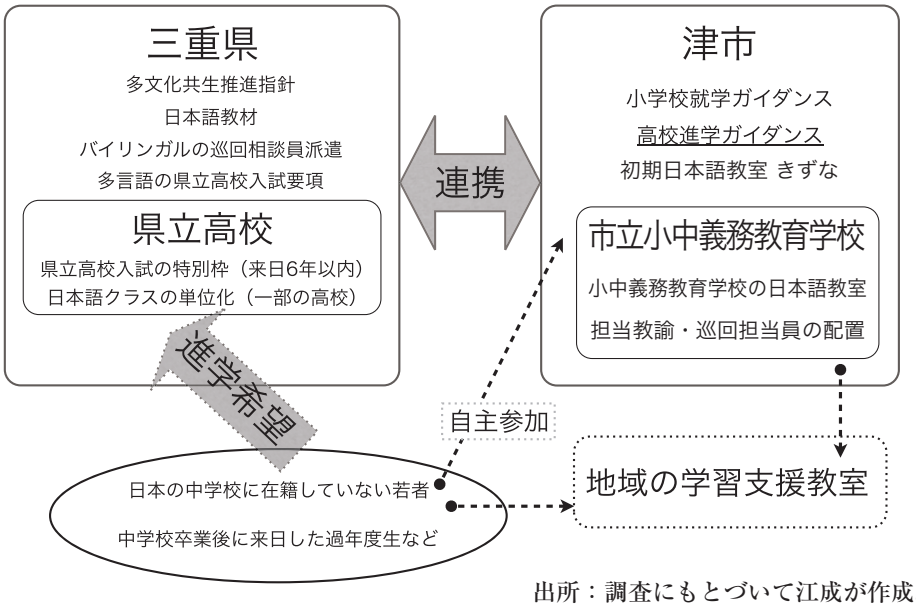
三重県内で日本語指導を必要とする外国につながる児童生徒は、文部科学省の統計よると増加の一途をたどっている。以前から人権教育に取り組んできた県であり、外国につながる児童生徒の公立学校への受け入れは、全国でも先進的と言われている。

三重県津市の場合、日本語指導が必要とされた中学生の高校進学率が9割に達している。津市教育委員会によると、平成29（2017）年3月に津市立中学校を卒業した外国につながる生徒の高校進学率は94.2%となり、その5年前にあたる平成24（2012）年3月卒業者の82.9%から大きく上昇した。

外国につながる子どもが急増した市町の教育委員会では、小中学生を対象とした初級日本語の指導（初期日本語教室）や小学校入学前の準備クラス（プレスクール）などを充実させている。中学生の進学率上昇は、志望先となる県立高校の選択肢が用意されていることや、学校での丁寧な進路指導、教育委員会主催の高校進学ガイダンスなどが功を奏していると考えられる。図1は、三重県津市で実施されている支援の相互補完を図式化したものである。津市教育委員会事務局の人権教育課が連携のハブとなり、教育的支援のネットワークが構築されてきた。

現在は、たとえ来日時の年齢が日本の中学校卒業まぢかで、日本語の初歩を勉強している子

図 1　三重県における教育支援ネットワーク



出所：調査にもとづいて江成が作成。

どもであっても、教育委員会を通じて日本語学習支援や進路指導を受けることができる。入試で英語を重視する国際科コースや、定時制コースのように外国につながる生徒が多く在籍する高校では、日本語学習のクラスを卒業単位に含めるなどの受け入れ態勢を取っている。

このように私たちの地域社会では、現在進行形で、多くの子どもたちが多文化的な家庭環境で育ち、社会に巣立っている。日本の公立学校における教育内容の公平性に考慮しながら、日本語学習の機会を十分に確保し、教科の理解を促進するための支援が引き続き求められる。

本稿では、外国につながる子どもと保護者を対象としたガイダンスの事例として、三重県津市の教育委員会が実施している事業を中心に紹介する。以下に報告する内容は、筆者による実地見学、および筆者が津市教育委員会ガイダンス実行委員会のアドバイザーとして、また三重県多文化共生推進委員として提供された資料にもとづいている。

3. 津市におけるガイダンスの事例

(1) 高校進学ガイダンスの実施形態

津市教育委員会人権教育課は、高校進学ガイダンスと小学校入学前の就学ガイダンスを毎年恒例の事業としており、それぞれ別の実行委員会が準備、実施を担っている。本稿では高校進学ガイダンスを取り上げることとし、先に示した図 1 の中に下線を付した。

津市教育委員会が主催する「学校に行こう！ in 津市〈高校進学ガイダンス〉」は、年に 2 回の開催が定着している。7 月には、市内にある県立の高等学校のうち 1 校を毎年巡回し、会場の学校紹介、高校施設および部活動等の見学、先輩・保護者からのメッセージというプログラムが組まれる。9 月には公共施設を会場として、入試に関する情報とさまざまな高校を紹介す

る。プログラムは、三重県教育委員会がはじめに入試制度全般と外国人特別枠選抜、および学費について説明する。さらに、全ての参加高校による説明のあと、高校ごとにブースを設置しての個別相談会、また、三重県教育財務課による支援制度の個別相談会が行われる。

筆者は 2013 年以降オブザーバーもしくはアドバイザーとして、実行委員会に関わってきた。初期のころは、事務局の提案を頼りにした形式的な準備会議という印象も受けた。何年も継続するにつれて、事務局と外国につながる子どもの多い中学校との連携が進み、参加者の声を反映して内容が磨かれ、完成度の高い活気あるプログラムとなった。近年では、1 回のガイダンスにつき、子どもと保護者を合わせて約百名が集まる。2020 年度は新型コロナウィルスのため中止となったが、その代わり入試情報の資料配付と、授業料等の支援制度について相談会が企画された。

参加者数の順調な伸びは、対象となる生徒が増加している以上に、少なくとも二つの理由があると考えられる。第一に、中学校の支援担当教員による参加への熱心な呼びかけである。南米出身の生徒が多い津市南部の中学校では、保護者説明会など一部の行事を参加しやすい日時に、通訳付きで実施しているそうだ。生徒一人ひとりの進路指導も在籍校で行っており、日頃の信頼関係が学校外での催しにも足を運ぶ意欲を引き出しているのであろう。

第二は、津市教育委員会のコーディネートによる多言語対応である。希望する保護者は、バイリンガルの津市臨時職員である巡回担当員などが付き添い、全体説明から施設見学、高校別の相談まで、逐語通訳のサポートを受けられる。対面での通訳は、希望者が少数のインドネシア語やタイ語などにもできる限り対応している。また毎年改定される県立高校入試の方針は、財団法人三重県国際交流協会によって英語、ポルトガル語、スペイン語、中国語、フィリピン語の翻訳が作成され、9 月のガイダンスには準備が整う。子ども自身が将来の進路を考え、モチベーションを高めると同時に、外国語の通訳・翻訳の充実により、日本の教育システムになじみのない保護者が情報を多く得られる機会であることを強調しておきたい。

(2) 実施例と意義

2018 年 7 月に、筆者は三重県立津工業高校で開催された高校進学ガイダンスを見学に訪れた。図 2 は、開催案内に記載されたおもな内容である。当日は台風が通過した影響が残っていたが、ほぼ予定通り参加者が集まった。同校のカリキュラムや部活動について説明を受け、工業技術の実習室をいくつも見学したあと、ふたたび全体会で外国につながる高校生とその保護者の体験談を聞いた。フィリピン出身の生徒が、高校進学までの努力と、現在の学校生活、将来の希望などを生き生きと語っていた。

三重県の公立高校入試制度では、前期日程に特色ある選抜方法を取り入れている。外国出身で、とくに来日からまもない進学希望者にとっては、作文、面接、英語科目などを採用している高校には比較的挑戦しやすい。同じ立場で日本の受験を乗り越えた体験談は心強く、これから進学を目指す人たちにとって励ましになると思われた。なお次の 2019 年度は、津商業高校を会場にして開催された。

以下に、2019 年 9 月に実施されたガイダンスのアンケート結果を津市教育委員会がまとめた資料より抜粋する。表記は掲載時のままである。

図２　平成30年度 第１回津市高校進学ガイダンスの案内チラシ（部分）

平成３０年度　学校へ行こう！in津市〈高校進学ガイダンス〉

目　的

○津市に居住する外国につながる児童・生徒とその保護者が、先輩・教師等から、進路や学校生活についての話を聞き、その後、仲間や教師との話し合いを通して、進路や学校生活に対する興味・関心を高めるとともに、将来に向け展望が持てるようにする。
○高校入試について不明な点や高校進学に対する様々な不安を取り除き、進学することや将来に対する展望が持てるようにする。

第１回

日時　　平成３０年　７月７日（土）　　13：00～15：45

会場　　三重県立津工業高等学校

参加対象者　　津市に居住する外国につながる児童・生徒とその保護者

（１）内容

○津工業高校の紹介

○施設や部活動の見学

○先輩・保護者からの話

（２）申し込みの方法

各学校に「申し込み用紙」が配布されていますので「申し込み用紙」を学校の担当の先生に渡してください。

出所：津市教育委員会人権教育課

児童・生徒の感想より：

・どの高校の先生方も優しく教えてくれて、すごくためになったし、今まで視野になかった高校も今日の説明会で行きたいなって思ったり、すごくいい経験になりました。
・すごく印象に残るような説明会でした。自分の行きたい高校のことにも深く知ることができて、すごくよかったです。
・不安なことや聞きたいことが聞けて、とてもよかったです。安心して試験を受けれます。
・自分が行きたい高校について疑問とかたくさんあったけど、今日で疑問がなくなりました。本当に説明とかくわしくて、とてもわかりやすかったです。そして、お母さんと一緒に話を聞いたので、お母さんにもアドバイスとかもらったので、うれしかったです。

保護者の感想より：

・日本の学校のシステムがよくわかってよかったです。私たち（外国人の保護者）は、あまり情報がないです。これからこの情報を役に立てたいです。
・もし高校に行くようになったら、何をすればいいのかがわかりました。勉強のこともお金

のこともくわしく説明してくれてよかったです。いろいろな高校を選ぶこともできるので、うれしいです。

・このガイダンスはとてもよかったです。生徒たちが高校に入るために、必要な条件や学力のレベルについて知ることができたからです。奨学金についての情報もありがとうございました。

・日本語の理解に関係なく、人々を支援するために通訳者を動員し、親切に疑問（悩み、迷い、不安）を明確にする（はっきり知ること）を可能にした関係者の皆さんに感謝します。

以上のように、参加者からは好意的な反応が寄せられている。また、日本語の説明のみでは不十分なことがわかる。募集対象の中学生にとどまらず、保護者と共に幼い弟妹も参加できるガイダンスの機会は、日本で長期的な教育目標を立てる上で役立つと思われる。三重県内の自治体では、このような進路説明会をそれぞれに企画しており、松阪市では参加者が貸し切りバスで複数の高校を巡る方式をとっているそうである。イベント型の事業であるため、綿密な準備をしていたところに台風の直撃で中止せざるを得ない年があったり、現在もコロナ禍で変更を余儀なくされているが、今後も恒例行事として続けることが重要であろう。

(3) その他の教育的ガイダンス

三重大学でも、津市教育委員会と連携して進路形成を支援しようという取り組みが行われている。教育学部の林朝子教授が代表となり、2017 年に始まった三重大学地域貢献活動「外国人児童生徒の学びの継続を目指す支援活動－キャリア形成につながる大学見学ツアーの実施－」である。人文学部の谷垣映子助教とともに、津市の外国につながる中学生を毎年 20 人ほど募集し、教育学部の学生によるガイドで大学附属図書館や講堂などを見学する。昨年 2019 年度には、人文学部のオープンキャンパスに合わせて中学生が本学を訪れた。企画から関わり、ツアーに同行した谷垣助教によれば、キャンパスや講義室の空間そのものに感銘を受けた生徒もいたという。高校を会場にして開催されるガイダンスと同様に、参加者が体験を通じて、将来に向けた具体的な目標を育てることを期待したい。

4. おわりに

三重県内で実施されている進学ガイダンスの具体的な例として、津市の取り組みを紹介した。2019 年末現在、津市は三重県内で四日市市に次いで外国人住民の人口が多い自治体である。鈴鹿市をしのぐ住民数を擁し、県北部や伊賀地方とならんで多文化共生は地域社会の重要な課題である。

日本政府が矢継ぎ早に打ち出した「外国人材」の積極的受け入れ方針は、コロナ禍でいくぶん後退している。とはいえ、長期的には家族とともに日本に移住し、将来的に定住する人々は増加すると予想される。外国出身の子どもたちが、小・中学生の段階から日本語習得や教科学習という日々の学びに加え、日本の教育システムについて正確な知識を獲得し、高校進学を含めた将来への準備を始められるよう、継続的な支援が不可欠である。

付記

本研究は平成 30 年度から令和 3 年度まで日本学術振興会学術研究助成基金助成金（基盤研究（C）（研究課題番号 18K02413）「三重県で増加する外国につながる高校生の進路形成の課題抽出と解決に向けた重点支援」の助成を受けて行っています。

筆者がこれまで外国出身の児童生徒を対象とした教育支援の場に立ち会うことができたのは、三重県内の教育委員会および学校関係者のご理解とご協力によるものです。ここに深く感謝いたします。

参考文献

江成　幸（2017）「三重県における外国出身児童生徒の学習支援に関する地域アクターの検討」『人文論叢』第 34 号, 27-34.

林　朝子（2019）「外国人児童生徒の学びの継続を目指す支援活動－キャリア形成につながる大学見学ツアーの実施－」,「三重大学地域貢献活動支援」テーマ一覧，三重大学ホームページ,
http://www.mie-u.ac.jp/kouken/　（2020 年 10 月 31 日閲覧）.